

第 3 号

発行 黄檗宗青年僧の会「大阪の集い」の有志
教化布教紙研究会
霊龜山 九 島 禅 院
〒550 大阪市西区本田3丁目4-18
Tel 06-582-5772

仏心ある生活を
さちあ

広大学部長 殺人事件

仏教的解決法

こともあろうに、国立大の学部長室で部屋の主が刺殺された。しかも、死体の上に砂が、頭と顔に水がかかけられていた。その奇怪さが、世間の耳目を集めました。ご存じの方も多いことでしょう。昨年の夏のことでした。その後、被疑者が逮捕され、取り調べの結果、被疑者が置かれていた大学助手の悲劇的な立場も同時にクロースアップされました。確かに、これほどまでではなくても、職場の人間関係に悩み、ソリの合わない上司への不満をつのらせている方も多いと思います。

あとの四苦は「愛別離苦」といって、愛する者と別かれなければならぬ苦や、「怨憎会苦（おんぞうえく）」「怨み憎んでいる者に会わねばならぬ苦しみ、そして「求不得苦（ぐぶとく）」「求めても得られない苦しき」、五陰盛苦（ごおんじょうく）」「自己に執着することから発する苦しみです。」「四苦八苦（しくはく）」という言葉も、ここから出たのです。ともあれ、人生そのものが苦であると仏教では教えているのです。人間関係についてみても人の軋轢（あつれき）は私たち凡夫がこの世に生きている限り、まぬがれぬ苦しみのなのです。あの人さえいなければどれだけこの職場が楽しいのか、と思う相手が必ずいるものです。だから、何度職場を変えてみても、その苦しみから逃れられないのです。そのところを忘れてはいけません。

一方キリスト教では「汝の敵を愛せよ」といって、どんな嫌な相手でも愛さねばなりません。が、仏教では、どこへ行っても必ず憎む者はいるし、そうした存在が厳然とある事実を認めよというのです。

この世界を「娑婆（しゃば）」とよんでいます。サンスクリット語（古代インド語）の「サーハー」を音訳したものです。「サーハー」とは忍ぶという意味があります。

この世では、他人の過ちや迷惑を耐え忍び、じっと我慢しなければならぬのです。なぜならば、私たちもまた、どんなに努力しても他人に迷惑をかけずに生きていくことなどできないからです。そうである以上、他人から受ける迷惑も許してあげなければならぬのです。だから、この世は「娑婆」であり「忍土」なのです。



今回の事件の被疑者の大学助手は、その事についての理解が足らなかつたのではないでしょう。被害者の教授憎しの感情を一途に抱き、無明(むみょう)の世界、修羅(しゅら)の世界に迷い込んだのでしよう。

娑婆における生き方は忍道(にんどう)、じつと耐え忍んでいくしかないのです。そのことを仏教では、六波羅蜜

の三番目に忍辱(にんにく)と呼んでいます。しかし、忍辱とはテレビドラマの悲劇の主人公のように、ひたすら受け身に耐え忍ぶのではなく、自らの不完全さを自覚し、他人に迷惑をかけないために耐える。換言すれば、他人を赦すということ。また、仏教では、ただあるがままに知り見ることを「如实知見(にょじつちけん)」

と呼びます。煩惱のメガネで物を見るのではなく、無心の澄んだ眼で見ることをいいます。私たちは、一切の煩惱を捨て去ってしまふことは出来ません。しかし、こだわりない気持ちで物ごとを見つめることを心掛けたいものです。上司の自分に対する評価も先入観や反撥からすぐに理屈をつけて反論するのではなく、なるべくこだわりなく受けと

めてみたいものです。今回の被疑者も、教授憎しの感情に凝り固まり、ハリの先を見つめてしまったのではないかと思います。

最後になりましたが、亡くなられた教授のご冥福をお祈りし、併せて被疑者の大学助手の一日も早い、贖罪(しょくざい)と社会復帰をお祈りたいと存じます。

(九島)

涅槃会と遺教経

涅槃会とは、二月十五日、お釈迦さまの入滅された日にちなんで行われる法会(ほうえ)のことです。四月八日の「降誕会」、十二月の「成道会」とともに、お釈迦さまの三大法会として重んじられ、涅槃忌とか仏忌・常楽忌ともよばれています。古く奈良時代のころより毎年二月十五日に、沙羅双樹の下に横たわっているお釈迦さまを囲んで、多くの弟子や動物が泣き悲しんでいる様子を描いた涅槃図を掲げ、遺教経(ゆいきょう)

ぎょう)をとなえて、お釈迦さまをお偲びします。お釈迦さまの入滅の模様を伝えた「大般涅槃経」によりまずと、お釈迦さまは二十九歳で出家、三十五歳で大悟、四十五年間の長きにわたり、人間の苦悩を解決するための正しい生活のあり方を説き続けられました。そして、八十歳、クシナラの河岸にある沙羅双樹の下で、頭を北に、右脇を下に、顔を西に向け、最後の最後まで教えを説かれて入滅されたのです。



涅槃に入り給らんとす。この時、風しずかに星澄み、寂然(じやくねん)として声なし。世尊もろもろの弟子のためにまた略して法のかなめを説き給う。

お釈迦さまの遺徳をお偲びするよすがとなりまますよ。遺教経の抄訳を掲げておきます。

(一) 世尊、みちびくべき者は皆すでにみちびき終わり、沙羅双樹の間に於いてまさに最後の時、

(二) 汝等よ、今わがやすらに入るを見て、正法とはに絶えたりと思ふなかれ。われすでに汝等のために戒を誨(おし)え、また法を説けり。わが亡き後は、これを重んじこれを尊ぶこと、闍(くら)きにありて、明(あかり)にあい、貧しき人の宝を得るが如くなるべし。これこそ汝等の生きたる師なればなり。

(三) 汝等よ、教えのかなめは心を修(おさ)むるにあり。ひたすら欲をおさえて己(おのれ)に克(か)かんとつとむべし。身を端(ただ)し、語(ことば)を正(ただ)し、意(こころ)を誠にし、常に無常の理(ことわり)を忘るること勿(なか)れ。



龍はインド生まれの空想上の動物で、もとは悪神でした。が、お釈迦さまの教えで仏教に帰依し、八部とって、天龍、夜叉、乾闥婆(けんだつ)、阿修羅(あしゅら)、伽楼羅(かるら)、摩睺羅迦(まごら)の人なら、摩睺羅迦(まごら)が衆のひとりとして、風と

もとはインドの悪神？

辰年にちなんで

(四) 汝等よ、吾が終わりすに近づき、とわの別れ目前に悲しむことを止めよ。滅びるものは壊身(えしん)に外ならず、真の仏はさとりの智慧にして、永久(とわ)に生き存(ながら)えん。吾が壊身を見るものは吾れを見るものに非(あら)ず、正法に目

醒(めざ)むるものこそ、つねに吾れを見るものなり。
(五) 汝等よ、静かに、しばらく語ることを止めよ。時まさに来たり。われ永久(とわ)の涅槃(やすらい)に入らんとす。これわが最後の教えなり。
(禅聖典三十九、四十頁) (仏日)

雲を自由に操って、仏法を守護するといわれています。
仏教とともに、中国から日本に伝わり、わが国では瑞兆(めでたいしるし)として、親しまれ敬われ、それによって年号も改めた例も少なくありません。
中国では西域の悪神、コンロンの西王母の使徒、黄河文明発祥地の黄土高原に降りたったという中国古代の帝王である黄帝の仮の姿などの伝説と一体化し、鳳(ほう)、麟(りん)、竜(き)とともに四霊の首座として神聖視され日が昇る東の海を支配することから青龍(チンロン)とも

(問い) 「観音さん」は実在の方ですか、

(答え) 大乘仏教では、一人でも多くの人を救うために生きている方を菩薩といいますが、観世音・観音・光世音・觀自在、あるいは別名で救世浄聖・施無畏者・蓮華手・普門・大悲聖者などとも「観音さま」で親しまれています。禅宗では「観世音」では、「観世音」自在」と訳されています(サンスクリット語)「シュバラ」といって、いを求める声(音)を濟する」ということで在」とは、世間の人々の人を親で救う働きがし、「観音」とは、特

なんでも質問箱

音声で親で救う大いなる慈悲の面を指して、お釈迦さまのような菩薩の慈悲行が人格化されたもので、お釈迦さまのように、実在の方ではありません。(編集子)

呼ばれ、古来から最高にして犯すべからざるものと考えられてきました。
龍頭とか龍帝という言葉は中国大陸を統一した歴代の皇帝に対する称号で、紀元前二〇二年前漢以降にはじまったといわれています。漢の高祖劉邦は、その母が大沢のほとりで夢に神龍に感じて生まれたところから龍帝と呼ばれ、以来新しい王朝の創始者にこの称号が与えられて来ました。



したがって、龍は皇帝を意味し、龍の図柄さえも皇帝の専用となり、一般民衆は龍の図柄の使用を禁止されてきました。元(一二七八年)以降は一般民衆も三本爪の龍の図

仏教よもやま話②

友引の日に葬式をだすと「友を引く」と言
ってよくないなどと言います。この友引は、
暦からきたものです。「六曜」(日の吉凶の
占い)という暦注の一つです。この六曜が日
本に入ったのは鎌倉時代だと言われますが、
一般に普及したのは旧暦と新暦が改暦され、
明治6年からです。「六曜」は、先勝・友引
先負・仏滅・大安・赤口をいい、仏滅とい
う日があるため、誤解さ
るようによく、物滅とも
感はなく、物滅とも
引についても、
」と書いており
は成立せぬから
という日であっ
て来てはよく
儀が生まれたので
大阪では正月の
ますが他は無休
友引の日が休業
すれば、こんな迷信を否定すべきで
けても結局「開店休業」同然である
理もないことと思われま

友
引
は
共
引

一般若・空の教えという仏教の教えの原点にと
帰れば、空とは「ものごとくいな迷いは否定す
いうことですから、このように吾々は死とい
べきですが、お互いに吾々は根強く残ったの
忌み嫌うので、この風習は根強く残ったの
す。現在では、ドライアイスという重宝を延
のがあり、友引の日を避けたため葬儀を延
できる時代でもあり、迷信とは「迷信を延
る技術によって残存する」と言う人
(編集子)

柄が使えるようになりまし
が、五本爪の龍は皇帝専用
皇帝の一族以外は使用する
とができなかったのです。ち
なみに日本の龍も三本爪が主
流となっています。

日本に龍が伝わったのは、
仏教が伝わった飛鳥時代(五
五二、六三〇年)のことで、
「古事記」のトヨタマヒメは
八尋和邇(やひろのわに)と
なって、御子を生み、「日本
書記」では、龍になったと表
現されています。また別には
秦の始皇帝の命を受け、不老
不死の仙薬を求めに日本にき

た徐福が伝えたという説もあ
ります。その後、神仏一体や
各地の民話と結びつき、水
神である龍王や龍神として信
仰を集めています。今でも京
都の三船まつり、浅草の金龍
の舞、長崎のくんち、静岡県
森町の龍舞など、龍を呼び、
龍を慰める伝説芸能や神事が
伝わっています。

龍王町や龍王山、龍ヶ岬、
龍神など龍のついた地名も多
く、地名にちなんだ龍神伝説
や民話も多い。

(編集子)

〔編集後記〕

○新年あけまして、おめでと
うございます。読者のみなさ
まの、ご健康とご多幸を祈念
申し上げます。

○本紙もやっと第3号を発行
することが出来ました。さら
に充実した紙面をめざして、よ
うに努力いたす所存ですので、よ
りいっそうのご愛顧とご教導
をお願い申し上げます。

○双羽黒廃業のニュースは、
昨年未から新年にかけて、世
間の耳目を集めました。

親方から私生活のことで注
意されたことに腹を立て、親
方婦人にケガをさせて、立浪
部屋を飛び出し、廃業に追い
込まれるという、まさに前代
未聞の出来事でした。ことの
真相は、今後関係者の口から
明らかになると思いますが、
双羽黒と親方との確執は、ま
さに「怨憎会苦」の苦しみに
いえるでしょう。古き伝統を
ほこる相撲界の「横綱」とい
っても人の子、つくづく、こ

の世は「娑婆」だと感じ
入りました。

○新しく、以下の寺院が
教化布教紙研究会のメン
バーに加わりました。

(瑞輪)
豊中市中桜塚
二二二二四

☎(06)
85715192

雪峰山 瑞輪禅寺

なお、瑞輪禅寺は、豊
中では、落語寺として有
名です。

(編集子)